

2024 年度

青山学院大学系属
浦和ルーテル学院小中高等学校

学校評価報告書

2025 年 4 月

浦和ルーテル学院学校評価委員会

【 目 次 】

2024 年度青山学院大学系属浦和ルーテル学院学校評価実施要領及び
評価委員会設置要綱

目次	< 1 >
1. 学校評価実施の趣旨	< 2 >
2. 評価委員会設置要綱	< 3・4 >
3. 学校評価アンケート項目の設定基準	< 5 >
4. 2024 年度学校評価アンケート調査項目	< 6 >
5. 学校評価アンケート調査結果の処理方法	< 7 >
6. 学校評価アンケート集計結果	< 8～10 >

1、学校評価実施の趣旨

2007 年（平成 19 年）6 月の学校教育法改正、同 10 月の学校教育法施行規則改正により自己評価、学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられ、2008 年 4 月より実施が義務付けられました。その目的について文部科学省では次の 3 点を挙げています。

- ① 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定しその状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより学校として組織的、継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

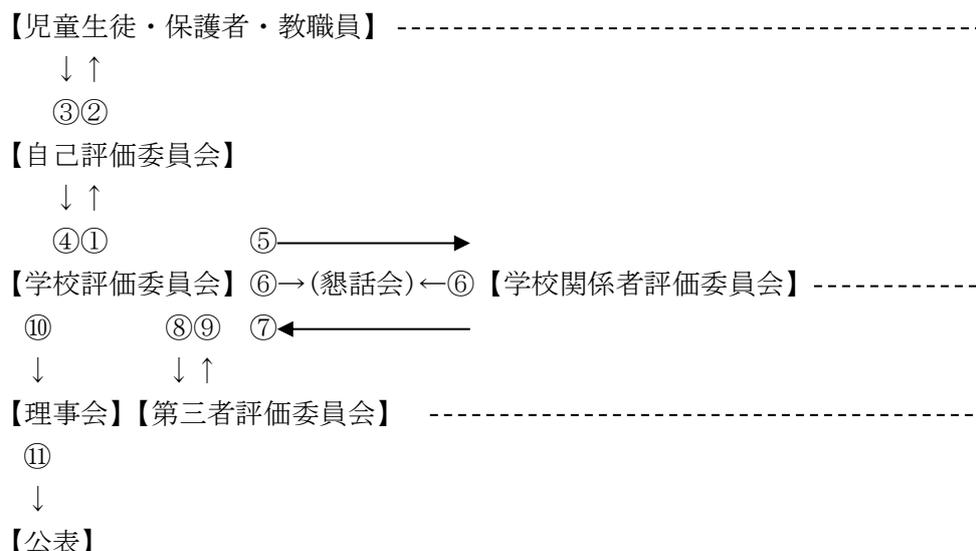
私立学校では上記 3 点を含め、あらゆる分野において改善・向上を目指し、組織的・継続的に努力を重ねています。私立学校の「建学の精神」とその実現を目指す日々の実践は常に厳しい評価にさらされています。すなわち存続そのものが評価であり、絶えざる改善・向上の取り組みなくして存続はありません。学院では内外の評価委員の忌憚のない評価をもとに、学院の教育活動の長短の現状を検証し、より良い教育活動の実現に結びつけることが大切と考えます。

※ 学校評価のスケジュール

2025 年 1 月～2 月	児童生徒、保護者、教師学校評価アンケート調査実施
2025 年 3 月	集計作業
2025 年 4 月	学校評価委員会がアンケート結果を学校関係者評価委員会へ提出 第 1 回学校評価懇話会（学校運営委員）開催
2025 年 6 月	学校評価委員会より理事会へ中間報告
2025 年 7 月	学校関係者評価委員による報告書作成及び学校評価委員会へ提出 第 2 回学校評価懇話会（学校運営委員）開催 第三者評価委員による評価報告書作成及び学校評価委員会へ提出
2025 年 8 月	公表（学院 HP へ掲出）

2、評価委員会設置要綱

(1) 評価委員会の組織図



(2) 各委員会の役割（文中の①～⑪は組織図の数字に対応する）

i 学校評価委員会

校長（委員長）、教頭（副委員長）、以下学校運営委員会のメンバー11名により構成され、自己評価委員会、学校関係者評価委員会、第三者評価委員会及び懇話会の職務内容を決め次の職務を遂行する。

- ①④ 自己評価委員会へ評価資料の収集を依頼する。
- ⑤ 自己評価委員会の評価資料を基に報告書を作成し学校関係者評価委員会へ提出する。
- ⑥ その後懇話会を開催し学校関係者評価委員会へ資料を提供する。
- ⑦⑧ 学校関係者評価委員会の報告を受けて第三者評価委員会へ提出し評価を依頼する。
- ⑨⑩⑪ 第三者評価委員会の報告を受けて理事会へ報告し、公表する。

ii 自己評価委員会

学校評価委員で構成し、委員長を教頭、副委員長を各部長とする。各部の部長は副部長と共に小中高の連携をとり、その部を中心に次の職務を遂行する。校務分掌主任及び教科主任はこれを補佐する。

- ② 学校評価委員会の計画を受けてアンケート調査等を実施する。
- ③ 調査結果を集計し委員長へ提出する。事務長を中心に財務等の自己評価報告書を作成し委員長へ提出する。
- ④ 委員長は集計結果を受けて各部の自己評価報告書を作成、学校評価委員会へ提出。

iii 学校関係者評価委員会

PTA 四役より1名、評議員より1名、同窓会役員より1名で構成し、次の職務を遂行する。

- ⑤⑥⑦ 学校評価委員会作成の自己評価報告書を精査し、懇話会を経て学校関係者評価委員会報告書を取りまとめそれを学校評価委員会へ提出する。（必要に応じて授業参観、意見聴取、アンケート調査等を行なう）

iv 第三者評価委員会

第三者により構成し（1人でも可）、次の職務を遂行する。

- ⑧⑨ 学校評価委員会より最終報告を受け精査し、これを学校評価委員会へ提出する。

(3) 2024年度学校評価各委員会一覧

委員会	構成委員
i 学校評価委員会	福島宏政理事長・校長（委員長） 近藤秀明初等部教頭（副委員長）、増田諭中高等部教頭（副委員長） 海老原弘枝初等部長、高木敏光中高等部長、 西村真奈美初等部副部長、石井道子中高等部副部長、 長谷川久教務部長、今村基洋国際教育部長、斉藤義和事務長
ii 自己評価委員会	近藤秀明初等部教頭（委員長）、増田諭中高等部教頭（委員長） 海老原弘枝初等部長（副委員長）、高木敏光中高等部長（副委員長） 福島宏政理事長・校長、西村真奈美初等部副部長 石井道子中高等部副部長、長谷川久教務部長 今村基洋国際教育部長、斉藤義和事務長
iii 学校関係者評価委員会	高野美貴（PTA会長）、小西綾子氏（PTA副会長） 松本亜紀子氏（PTA会計）、渡辺真由美氏（PTA会計） 肥留川貞子氏（PTA書記）、山本真寿美氏（PTA書記）

3、学校評価アンケート項目の設定基準

- (1) 「学校評価アンケートは網羅的で細かなチェックを行なうのではなく、重点化された目標を設定し精選して実施するものである」という文部科学省通達の趣旨に従いアンケート項目を設定した。
- (2) 「目指す学校像」、「学習」、「生活」、「行事」の4分野に対する意識調査を19の項目にわたって調査する。今年度は、昨年度に準じる設問とする。
- (3) 学院の建学の精神、教育ビジョン、目指すべき人間像は以下のようになっている。

【建学の精神】

神と人とを愛する人間、神と人にと愛される人間。

【教育ビジョン】

- ・ 神を愛し、神に愛される者として、周りの人に思いやりをもって行動し、自らも幸せに生きる人間を育てる。
- ・ 神を愛し、神に愛される者として、自分の能力を発展させ、自分らしく成長する人間を育てる。

【目指すべき人間像】

- ・ 創造的な思考を身につけ、自分自身の考えを持ち、いかに学ぶべきかを学ぶ人間。
- ・ アクティブで良識ある国際人として、ますますAIが普及し国際化が進む中であって、隣人と共に平和な時代を創り、共に生きる人間。

4、2024 年度学校評価アンケート調査項目

◎ 児童生徒用（5～12 年）・保護者用（1～12 年）

- 1、現在の（お子様）の学年
- 2、現在の（お子様）のクラス
- 3、Ⅰ [A] 建学の精神、ギフト教育等、学院の根幹を成す指導全般
- 4、Ⅰ [B] 学習指導に対する学院の取り組み
- 5、Ⅰ [C] 人格教育に対する学院の取り組み
- 6、Ⅰ [D] 行事全般に対する学院の取り組み
- 7、Ⅱ 意見等を聞く機会の提供
- 8、Ⅲ 学院の児童生徒、保護者及び外部に対する情報公開
- 9、Ⅳ 学院の防犯、防災、安全管理への対策
- 10、Ⅴ 12 年一貫教育のメリットが生かされた教育活動
- 11、Ⅵ [A] 学習習慣がしっかり身につく、分かりやすい授業
- 12、Ⅵ [B] 教材やテキスト等が工夫され、学力向上への環境整備
- 13、Ⅶ [A] 教師の親身になった教育相談
- 14、Ⅶ [B] 基本的な生活習慣が身に付く生活指導
- 15、Ⅷ ICT 機器を活用した授業
- 16、Ⅸ 学院に対するご意見、ご要望等

◎ 教員用（初等部、中等部、高等部）

- 1、現在、担当している部
- 2、Ⅰ [A] 学院の建学の精神、ギフト教育等、学院の根幹を成す指導全般
- 3、Ⅰ [B] 学習指導に対する学院の取り組み
- 4、Ⅰ [C] 人格教育に対する学院の取り組み
- 5、Ⅰ [D] 行事全般に対する学院の取り組み
- 6、Ⅱ 児童生徒、保護者から意見等を聞く機会の提供
- 7、Ⅲ 学院の児童生徒、保護者及び外部に対する情報公開
- 8、Ⅳ 学院の防犯、防災、安全管理への対策
- 9、Ⅴ 12 年一貫教育のメリットを生かす取り組み
- 10、Ⅵ [A] （自分の授業について）分かりやすく学習習慣がしっかり身に付く授業
- 11、Ⅵ [B] （自分の授業について）教材やテキストなどが工夫され、学力向上への環境整備
- 12、Ⅶ [A] 児童生徒への親身になった教育相談
- 13、Ⅶ [B] 基本的な生活習慣が身に付く生活指導
- 14、Ⅷ ICT 機器を活用した授業
- 15、Ⅸ 学院に対するご意見、ご要望等

※全ての設問は、以下の 4 択で回答

- ・大いに満足している ・まずまず満足 ・やや不満である ・大いに不満である

5、学校評価アンケート調査結果の処理方法

I～Ⅷについて「大いに満足している」～「大いに不満である」をポイント化して満足度を数値化している。

- (1) 大いに満足している……3点
- (2) まずまず満足している……2点
- (3) やや不満である……1点
- (4) 大いに不満である……0点

<回答総数12名の場合>

例1 (1) 12人 (2) 0人 (3) 0人 (4) 0人
 $(3点 \times 12人) + (2点 \times 0人) + (1点 \times 0人) + (0点 \times 0人) = 36点$
 $36 \div (3点 \times 12人) \times 100 = 100ポイント$

例2 (1) 6人 (2) 6人 (3) 0人 (4) 0人
 $(3点 \times 6人) + (2点 \times 6人) + (1点 \times 0人) + (0点 \times 0人) = 30点$
 $30 \div (3点 \times 12人) \times 100 \approx 83ポイント$

例3 (1) 3人 (2) 3人 (3) 3人 (4) 3人
 $(3点 \times 3人) + (2点 \times 3人) + (1点 \times 3人) + (0点 \times 3人) = 18点$
 $18 \div (3点 \times 12人) \times 100 \approx 50ポイント$

例4 (1) 0人 (2) 0人 (3) 6人 (4) 6人
 $(3点 \times 0人) + (2点 \times 0人) + (1点 \times 6人) + (0点 \times 6人) = 6点$
 $6 \div (3点 \times 12人) \times 100 \approx 17ポイント$

全員が大いに満足していれば満点で100ポイントとなり、各項目が均衡していれば満足度50ポイント、全員が大いに不満なら0ポイントとなる。
一般に満足度60ポイント以上で正常とされている。

6、学校評価アンケート集計結果

(1) 2024年度アンケート集計結果（児童生徒まとめ）

初等部児童（5・6年生 計146名）

（回答者 137 名）

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	43	31.4%	75	54.7%	18	13.1%	1	0.7%	72.3
I B	学習指導	46	33.6%	71	51.8%	17	12.4%	3	2.2%	72.3
I C	人格教育	40	29.2%	57	41.6%	27	19.7%	13	9.5%	63.5
I D	行事	77	56.2%	40	29.2%	14	10.2%	6	4.4%	79.1
II	意見聴取	35	25.5%	63	46.0%	29	21.2%	10	7.3%	63.3
III	情報公開	48	35.0%	69	50.4%	17	12.4%	3	2.2%	72.7
IV	安全対策	75	54.7%	46	33.6%	13	9.5%	3	2.2%	80.3
V	12年一貫メリット	70	51.1%	47	34.3%	17	12.4%	3	2.2%	78.1
VI (A)	分かりやすい授業	62	45.3%	47	34.3%	22	16.1%	6	4.4%	73.5
VI (B)	教材やテキストの工夫	62	45.3%	64	46.7%	6	4.4%	5	3.6%	77.9
VII (A)	親身な教育相談	56	40.9%	47	34.3%	23	16.8%	11	8.0%	69.3
VII (B)	生活指導	56	40.9%	61	44.5%	17	12.4%	3	2.2%	74.7
VIII	ICTの活用	60	43.8%	57	41.6%	11	8.0%	9	6.6%	74.2

中等部生徒（7～9年生 計229名）

（回答者 192 名）

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	31	16.1%	97	50.5%	40	20.8%	24	12.5%	56.8
I B	学習指導	30	15.6%	95	49.5%	41	21.4%	26	13.5%	55.7
I C	人格教育	34	17.7%	84	43.8%	46	24.0%	28	14.6%	54.9
I D	行事	33	17.2%	77	40.1%	54	28.1%	28	14.6%	53.3
II	意見聴取	22	11.5%	66	34.4%	52	27.1%	52	27.1%	43.4
III	情報公開	38	19.8%	95	49.5%	32	16.7%	27	14.1%	58.3
IV	安全対策	66	34.4%	92	47.9%	18	9.4%	16	8.3%	69.4
V	12年一貫メリット	48	25.0%	76	39.6%	40	20.8%	28	14.6%	58.3
VI (A)	分かりやすい授業	31	16.1%	86	44.8%	47	24.5%	28	14.6%	54.2
VI (B)	教材やテキストの工夫	39	20.3%	90	46.9%	41	21.4%	22	11.5%	58.7
VII (A)	親身な教育相談	57	29.7%	82	42.7%	30	15.6%	23	12.0%	63.4
VII (B)	生活指導	37	19.3%	99	51.6%	33	17.2%	23	12.0%	59.4
VIII	ICTの活用	49	25.5%	88	45.8%	32	16.7%	23	12.0%	61.6

高等部生徒（10～12年生 計222名）

（回答者 202 名）

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	58	28.7%	101	50.0%	35	17.3%	8	4.0%	67.8
I B	学習指導	46	22.8%	110	54.5%	36	17.8%	10	5.0%	65.0
I C	人格教育	43	21.3%	87	43.1%	56	27.7%	16	7.9%	59.2
I D	行事	31	15.3%	83	41.1%	59	29.2%	29	14.4%	52.5
II	意見聴取	36	17.8%	76	37.6%	57	28.2%	33	16.3%	52.3
III	情報公開	48	23.8%	106	52.5%	37	18.3%	11	5.4%	64.9
IV	安全対策	72	35.6%	101	50.0%	24	11.9%	5	2.5%	72.9
V	12年一貫メリット	52	25.7%	77	38.1%	51	25.2%	22	10.9%	59.6
VI (A)	分かりやすい授業	44	21.8%	114	56.4%	33	16.3%	11	5.4%	64.9
VI (B)	教材やテキストの工夫	40	19.8%	124	61.4%	28	13.9%	10	5.0%	65.3
VII (A)	親身な教育相談	90	44.6%	86	42.6%	21	10.4%	5	2.5%	76.4
VII (B)	生活指導	47	23.3%	117	57.9%	30	14.9%	8	4.0%	66.8
VIII	ICTの活用	58	28.7%	102	50.5%	32	15.8%	10	5.0%	67.7

(2) 2024年度アンケート集計結果(保護者まとめ)

初等部保護者

(回答者 100 名)

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	62	62.0%	32	32.0%	6	6.0%	0	0.0%	85.3
I B	学習指導	49	49.0%	41	41.0%	8	8.0%	2	2.0%	79.0
I C	人格教育	60	60.0%	31	31.0%	7	7.0%	2	2.0%	83.0
I D	行事	46	46.0%	44	44.0%	9	9.0%	1	1.0%	78.3
II	意見聴取	35	35.0%	42	42.0%	22	22.0%	1	1.0%	70.3
III	情報公開	36	36.0%	48	48.0%	16	16.0%	0	0.0%	73.3
IV	安全対策	44	44.0%	48	48.0%	8	8.0%	0	0.0%	78.7
V	12年一貫メリット	49	49.0%	33	33.0%	14	14.0%	4	4.0%	75.7
VI (A)	分かりやすい授業	50	50.0%	41	41.0%	8	8.0%	1	1.0%	80.0
VI (B)	教材やテキストの工夫	44	44.0%	43	43.0%	12	12.0%	1	1.0%	76.7
VII (A)	親身な教育相談	67	67.0%	27	27.0%	6	6.0%	0	0.0%	87.0
VII (B)	生活指導	53	53.0%	43	43.0%	4	4.0%	0	0.0%	83.0
VIII	ICTの活用	41	41.0%	50	50.0%	8	8.0%	1	1.0%	77.0

中等部保護者

(回答者 100 名)

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	28	28.0%	62	62.0%	10	10.0%	0	0.0%	72.7
I B	学習指導	22	22.0%	57	57.0%	20	20.0%	1	1.0%	66.7
I C	人格教育	28	28.0%	57	57.0%	13	13.0%	2	2.0%	70.3
I D	行事	22	22.0%	50	50.0%	26	26.0%	2	2.0%	64.0
II	意見聴取	21	21.0%	54	54.0%	24	24.0%	1	1.0%	65.0
III	情報公開	19	19.0%	49	49.0%	29	29.0%	3	3.0%	61.3
IV	安全対策	27	27.0%	58	58.0%	14	14.0%	1	1.0%	70.3
V	12年一貫メリット	26	26.0%	50	50.0%	18	18.0%	6	6.0%	65.3
VI (A)	分かりやすい授業	17	17.0%	55	55.0%	24	24.0%	4	4.0%	61.7
VI (B)	教材やテキストの工夫	16	16.0%	53	53.0%	28	28.0%	3	3.0%	60.7
VII (A)	親身な教育相談	42	42.0%	49	49.0%	7	7.0%	2	2.0%	77.0
VII (B)	生活指導	25	25.0%	63	63.0%	11	11.0%	1	1.0%	70.7
VIII	ICTの活用	23	23.0%	57	57.0%	14	14.0%	6	6.0%	65.7

高等部保護者

(回答者 138 名)

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	46	33.3%	81	58.7%	10	7.2%	1	0.7%	74.9
I B	学習指導	36	26.1%	80	58.0%	21	15.2%	1	0.7%	69.8
I C	人格教育	41	29.7%	77	55.8%	19	13.8%	1	0.7%	71.5
I D	行事	35	25.4%	74	53.6%	28	20.3%	1	0.7%	67.9
II	意見聴取	35	25.4%	77	55.8%	23	16.7%	3	2.2%	68.1
III	情報公開	29	21.0%	87	63.0%	18	13.0%	4	2.9%	67.4
IV	安全対策	45	32.6%	85	61.6%	7	5.1%	1	0.7%	75.4
V	12年一貫メリット	32	23.2%	74	53.6%	28	20.3%	4	2.9%	65.7
VI (A)	分かりやすい授業	33	23.9%	78	56.5%	26	18.8%	1	0.7%	67.9
VI (B)	教材やテキストの工夫	29	21.0%	85	61.6%	20	14.5%	4	2.9%	66.9
VII (A)	親身な教育相談	64	46.4%	68	49.3%	6	4.3%	0	0.0%	80.7
VII (B)	生活指導	38	27.5%	92	66.7%	7	5.1%	1	0.7%	73.7
VIII	ICTの活用	36	26.1%	85	61.6%	14	10.1%	3	2.2%	70.5

(3) 2024年度アンケート集計結果(教員まとめ)

初等部教師

(回答者 19 名)

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	0	0.0%	17	89.5%	2	10.5%	0	0.0%	63.2
I B	学習指導	0	0.0%	10	52.6%	9	47.4%	0	0.0%	50.9
I C	人格教育	2	10.5%	12	63.2%	4	21.1%	1	5.3%	59.6
I D	行事	2	11.8%	13	76.5%	0	0.0%	2	11.8%	62.7
II	意見聴取	1	5.3%	11	57.9%	6	31.6%	1	5.3%	54.4
III	情報公開	2	11.1%	11	61.1%	5	27.8%	0	0.0%	61.1
IV	安全対策	2	10.5%	12	63.2%	4	21.1%	1	5.3%	59.6
V	12年一貫メリット	0	0.0%	6	31.6%	12	63.2%	1	5.3%	42.1
VI (A)	分かりやすい授業	1	5.3%	15	78.9%	3	15.8%	0	0.0%	63.2
VI (B)	教材やテキストの工夫	0	0.0%	14	73.7%	5	26.3%	0	0.0%	57.9
VII (A)	親身な教育相談	2	10.5%	16	84.2%	1	5.3%	0	0.0%	68.4
VII (B)	生活指導	2	10.5%	14	73.7%	3	15.8%	0	0.0%	64.9
VIII	ICTの活用	1	5.3%	9	47.4%	9	47.4%	0	0.0%	52.6

中等部教師

(回答者 12 名)

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	1	8.3%	11	91.7%	0	0.0%	0	0.0%	69.4
I B	学習指導	0	0.0%	11	91.7%	1	8.3%	0	0.0%	63.9
I C	人格教育	2	16.7%	9	75.0%	1	8.3%	0	0.0%	69.4
I D	行事	1	11.1%	8	88.9%	0	0.0%	0	0.0%	70.4
II	意見聴取	2	16.7%	6	50.0%	2	16.7%	2	16.7%	55.6
III	情報公開	3	25.0%	7	58.3%	2	16.7%	0	0.0%	69.4
IV	安全対策	1	8.3%	9	75.0%	2	16.7%	0	0.0%	63.9
V	12年一貫メリット	1	8.3%	8	66.7%	3	25.0%	0	0.0%	61.1
VI (A)	分かりやすい授業	0	0.0%	9	75.0%	2	16.7%	1	8.3%	55.6
VI (B)	教材やテキストの工夫	0	0.0%	11	91.7%	0	0.0%	1	8.3%	61.1
VII (A)	親身な教育相談	2	16.7%	9	75.0%	1	8.3%	0	0.0%	69.4
VII (B)	生活指導	0	0.0%	7	58.3%	5	41.7%	0	0.0%	52.8
VIII	ICTの活用	0	0.0%	9	75.0%	2	16.7%	1	8.3%	55.6

高等部教師

(回答者 17 名)

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	2	11.8%	13	76.5%	2	11.8%	0	0.0%	66.7
I B	学習指導	0	0.0%	15	88.2%	2	11.8%	0	0.0%	62.7
I C	人格教育	2	11.8%	13	76.5%	2	11.8%	0	0.0%	66.7
I D	行事	1	6.7%	14	93.3%	0	0.0%	0	0.0%	68.9
II	意見聴取	3	17.6%	9	52.9%	3	17.6%	2	11.8%	58.8
III	情報公開	4	23.5%	9	52.9%	4	23.5%	0	0.0%	66.7
IV	安全対策	4	23.5%	12	70.6%	1	5.9%	0	0.0%	72.5
V	12年一貫メリット	0	0.0%	11	64.7%	5	29.4%	1	5.9%	52.9
VI (A)	分かりやすい授業	0	0.0%	14	82.4%	3	17.6%	0	0.0%	60.8
VI (B)	教材やテキストの工夫	1	6.3%	13	81.3%	2	12.5%	0	0.0%	64.6
VII (A)	親身な教育相談	2	11.8%	14	82.4%	1	5.9%	0	0.0%	68.6
VII (B)	生活指導	0	0.0%	12	70.6%	5	29.4%	0	0.0%	56.9
VIII	ICTの活用	1	5.9%	10	58.8%	6	35.3%	0	0.0%	56.9

7、学校評価アンケート集計結果考察

※文中の数値は全て四捨五入して表記、また（ ）内の数値は昨年度の満足ポイント数値

2024年度の学校評価アンケートは、例年通り Web 形式を採用した。調査対象は、例年通り児童生徒、保護者、教員の3者である。基本的に初（1～6年生）中（7～9年生）高（10～12年生）に分けてアンケートを集計しているが、児童生徒の場合については、初等部は5・6年生のみを対象としている。なお教員は常勤・専任及び各部の担任以外の教員が対象である。

全体を通して、前年度に比べて満足ポイント（以下ポイント）が上向きとなっている。前年度のアンケート調査等の結果を通じて、よよい学校を作っていこうとする学院の姿勢を受け止め、児童生徒、保護者からの評価を得られているものと捉えられる。以下に各項目についての考察を挙げる。

（1）Ⅰ、〔A〕～〔D〕（建学の精神、人格教育、学習指導、学校行事）

当該項目のポイントを平均化した数値は、児童生徒 63 (58)、保護者 74 (71)、教員 65 (67) であった。保護者からは例年 70 以上の高い評価を得ており、初等部保護者は 81 (81) と最も高く、中等部保護者 68 (66)、高等部保護者 71 (65) からも概ね良好な評価を得た。一方、児童生徒のポイントは初等 72 (64)、中等部 55 (54)、高等部 61 (57) となった。児童生徒及び保護者からの評価は前年度を上回る評価だった。ポイントはすべて 60 以上であるが、児童生徒<教員<保護者の序列となっている。児童生徒の評価が最も低いという点について、児童生徒の意識を留意して対応を検討しなければならない。また(D)「学校行事」については初等部 79 (68)、中等部 53 (55) 高等部生徒のポイントは 53 (50) だった。中高等部の満足度は 60 ポイントを下回った。コロナ前の行事の取組に復帰する期待感と現実の停滞感が数値に表れていると推察される。

（2）Ⅱ、（意見聴取）Ⅲ、（情報公開）

Ⅱのポイント平均化数値は、児童生徒 53 (50)、保護者 72 (64)、教員 56 (66) であった。ポイントの序列は児童生徒<教員<保護者であった。保護者のポイントは 70 以上と良好だが、児童生徒・教員の満足度は 60 ポイントを下回った。子ども達や教員が学院に対して望んでいることや期待していることを傾聴していく姿勢がより求められていると思われる。Ⅲのポイント平均化数値は、児童生徒 65 (60)、保護者 69 (68)、教師 66 (68) で、概ね良好な数値となった。

（3）Ⅳ、（安全対策）

Ⅳのポイント平均化すると、児童生徒 74 (71)、保護者 72 (77)、教員 65 (69) となった。登校時間帯の浦和美園、東川口、北越谷、北浦和の各駅スクールバス乗車時や学院敷地内正面玄関前での不審者対応。第2駐車場で行う登下校時の送迎車の誘導や降車後の児童生徒の安全なエリアへの誘導。敷地内及び校内数カ所に設置された防犯カメラ、校舎出入口のオートロックなどを実施している。また、暑さ指数を計測する計器を校舎内外複数個所に設置、教室内や体育館だけでなく廊下の空調まで適宜稼働させる熱中症対策を行っている点など、学院の安全対策には例年高い評価を得ている。2024年度の評価で特筆することは、保護者よりも児童生徒のポイントが高くなっていたことである。児童生徒が日常生活を送る中で学院の安全対策に安心感を得られていることの表れであると考えられる。

（4）Ⅴ、（12年一貫メリット）

Ⅴのポイント平均化すると、児童生徒 65 (60)、保護者 68 (65)、教員 52 (56) という結果であった。この項目は例年、児童生徒と保護者からは 60 以上のポイントで良好な評価だが、教員については昨年度より 4 ポイント下回った。学院全体の一大テーマである本項目については、中長期的に 12 年一貫教育のメリット・デメリットを抽出し様々な視点から検証していくことが求められている。

(5) VI、A (授業の分かりやすさ) B (教材やテキストの工夫)

VI、A のポイントを平均化すると、児童生徒は 64 (61)、保護者は 73 (68)、教員 60 (63) となった。また、B のポイントを平均化すると、児童生徒は 67 (63)、保護者は 70 (67)、教員は 61 (73) という結果だった。A 及び B の項目はいずれも 60 を超えて概ね良好な評価となった。教員による自己評価のポイントは前年よりも下降しているものの、児童生徒・保護者のポイントは A・B ともに上昇している。子ども達や保護者からは、学力向上を期する教員の取り組みに対して、昨年度以上に教材研究やテキストの工夫に取り組んでいたことを評価する結果となった。

(6) VII、A (親身に相談に乗ってくれる) B (生活指導)

VII、A のポイントを平均化すると、児童生徒は 70 (64)、保護者は 75 (78)、教員 69 (67) となった。B は、児童生徒は 67 (62)、保護者は 70 (74)、教員は 58 (59) という結果だった。A はいずれも 60 以上となって概ね良好な評価を得た。なかでも保護者のポイントは全体に高く、初等部 87 (87)、中等部 77 (75)、高等部 81 (72) とすべてが上昇している。児童生徒を中心に置いて、保護者と学院との協力体制が構築されていることが表れていると考えられる。また、B のポイントの序列は、教員<児童生徒<保護者だった。児童生徒、保護者からは、概ね良好な評価を得られている。また、教員のポイントは昨年度を 1 ポイント下がったが、諸問題への対応方法について、さらに改善の余地があるという前向きな姿勢の表れと期待している。

(7) VIII (ICT)

VIIIは、ICT 機器を利用した授業についてのアンケート項目で、ポイントを平均化すると児童生徒は 68 (65)、保護者は 74 (70)、教員 55 (57) となり、序列は教員<児童生徒<保護者となった。保護者や児童生徒のポイントは、学院が取り組んでいる ICT の活用について概ね肯定的に受け止められている結果と考えられる。一方、教員のポイントは昨年度より 2 ポイント下がったが、これは現状に満足せず、さらに充実した活用を模索する姿勢の表れと期待している。

8、改善対策

学校評価の結果をうけて、短期的あるいは中長期的に改善対策を検討、実施していくことが必要である。ここでは概要にとどめる。

(1) 12 年一貫教育の再編成

コロナ禍があけて、学院では小中高全体で取り組んできた行事への復帰を検討している。また、学習指導要領の改訂と実施に連動して、初等部・中等部・高等部ごとの途切れや継ぎ目のないカリキュラムを編成し、教科によっては他教科と連携して横断的な授業を実施したり、異なった学年の生徒と同じ教科の授業を行ったりするなど、縦横に展開する学院ならではの授業実践を進めている。児童生徒が多角的な視点から学ぶことで、学習理解をいっそう深め、最長 12 年間かけて国際社会で活躍できる人材を養成していきたい。

(2) 授業の質的向上

初等部、中高等部の時間割を調整し、毎週各教科の教員が会合する教科部会を開催している。教科部会は、児童生徒の情報を共有するとともに、授業経営上、教員が抱えている諸問題を共有して、教員が一人で抱え込むことなく教科として協働で対応し、各教員の授業の質的向上を進めていくことが期待できる。また、教科主任会を不定期に持ち、教科ごとに抱えている諸問題を共有したり、学力向上に向けた議論を深めたりするなど、各教科相互に啓発・研鑽し、学院全体の授業の質的向上に向けて取り組む機会となっ

ている。なお、2024年度は昨年度の引き続き、授業学研究所の大矢純氏を招き、若手から中堅教員を中心に、授業を行うに必要な基本的な技術の修得や学院全体の授業力の向上を期して、授業研修会を行っている。また、教科指導における専門性の向上を目指し、文教大学より教育学部教授萩原敏行先生（国語）、文教大学教育学部教授石井勉先生（算数・数学科）より指導を仰ぎ、研究授業を行った。2024年度は初等部での実施だったが、2025年度より中等に対象を広げて実施する計画をたてている。

（3）児童生徒、保護者のかかわり方の技能向上

アンケート結果で示された児童生徒、保護者、教員からの不満足な点を解消できるよう努めるとともに、自分たちだけでは気づかない不備を改め、児童生徒や保護者と前向きで良好な関係を築いていく必要がある。少人数だからこそその丁寧な指導を大切にしながら、発達段階に応じて児童生徒の自主性を重んじた対応や保護者への協力依頼を心がけることが最重要であり、児童生徒が教員に受け止められ、見守られているという自覚・安心感が得られるよう指導を行っていく。また、アンケートの回答に対して、教員間のディスカッションを行い、児童生徒への対応についての情報交換の場や意見交換の場を継続的に設けていく。